

温暖化研究 4大学連携

東大・千葉大など

気候予測システム開発

同開発する。成果は気温上昇の予測や影響を分析している国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」に提供し、温暖化問題の克服に貢献する狙いだ。

東京大学や千葉大学など国内四大学が連携し、将来の地球気候を正確に予測する仮想研究所を四月一日に設立する。衛星観測や大気測定などそれぞれの得意分野の成果を持ち寄り、世界最高水準の気候予測システムを共

連携するのは東大、千葉大、名古屋大学、東北大学で、設立するのは「地球気候の診断にかかわるバーチャルラボトリー」。東大は気候モデルづくり、千葉大は人工衛星観測、名大は雲や雨などの水循環の研究、東北

大は二酸化炭素（CO₂）の詳細な観測と、各大学には得意分野がある。それぞれの成果を共有し、ひとつの大研究機関のように研究を進める。

二〇一三年ころまでに観測データをもとにスーパーコンピュータを使って将来の気候や短期的な天候を高精度に予測する体制を整える計画だ。国立環境研究所も協力する予定で、将来は気候予測分野で国内の関連研究機関の大団結を目指す。